



きたみらい農業協同組合
代表理事組合長 大坪 広則

組合員の営農と生活の向上を図るために、平成15年2月1日に温根湯・留辺蘂・置戸町・訓子府町・相内・上常呂・北見市・端野町の8JAが大同団結による広域合併を成し遂げ、「JAきたみらい」が誕生してから早いもので20年の節目が過ぎました。

この合併から今日に至るまでには、多くの皆さんの汗と知恵を結集した取り組みがあり、組合員・役員・職員、そして系統連合会ならびに関係機関・団体等に対し、あらためて心より感謝と御礼を申し上げます。

このたび、10周年の節目から今日まで歩んできた歴史を正確に後世へ伝えるため、記念事業の一環として20周年記念誌を発刊いたしました。

現在、農業・JAを取り巻く情勢においては、先行き不透明感が増大する変化の中にあり、ロシアによるウクライナ侵攻以来、食料・資源のサプライチェーンに不安が生じており、急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりもあいまって、農業経営に甚大な影響が出てきております。

また、国際貿易交渉については、TPP11の発効をはじめ貿易の自由化が進展しており、環境問題等への世界的な関心が高まる中で、生産者の不安を払拭し若い農業者が希望を持ち続けられるような地域農業の確立と農業所得の向上へとつながるよう、その動向を注視していくとともに、国民の生活に影響がでないよう、農畜産物を無駄にしない毅然とした対応を求めていく必要があります。

農業は、食料の生産という国民生活に欠かすことができない極めて重要な役割を担っております。国としても先を見据えた中で食料自給率の確保等による食料の安全保障体制の確立を目指しているところです。

JAの使命は、組合員が生産した安全・安心で良品質な農畜産物を消費者へ安定供給しながら、地域社会にも貢献し、持続的に社会的責任を果たしていくことにあります。組合員の営農と生活を守るからこそ、第一義にあることは申し上げるまでもありませんが、そのためには、JA経営の健全化と持続可能な組織基盤を確立していくことが、今後ますます重要となってまいります。

今日にいたるまでの間、当JAにおいては、経営資源の選択と集中による効率的・効果的な事業運営と組合員所得の安定・向上を目指し、平成21年にセンター方式と出向く体制による新たな業務体制がスタートしました。

JAきたみらいとしては大きな転換期となりますが、その後、協同の成果の発揮を持続的に取り組むことで農畜産物販売取扱高は

367億円から510億円と大幅に増加、農業所得も大幅に増大し、これまでの取組みを「更なる合併メリットの追求」と「組合員所得の向上」に結び付けることができました。

昨今、世界の人口は80億人に達し、2050年には97億人に増加すると言われております。しかしながら、地域によって増加率に大きな差があり、我が国においては1億2千万人あった総人口が2050年には9,515万人まで減少し、今後は高齢化の進行と生産年齢人口のさらなる減少が予測されており、地域における人口減少や農業・物流分野等における労働力不足が深刻な課題となっております。

合併当初、1,500戸を超えた組合員戸数も、現在では900戸を下回り、設立当初からみるとかなり減少しております。一方、販売取扱高は500億円を超え、個々の経営規模が拡大してきております。農業・JAの役割は益々大きくなってきており、将来を見据えた対応策が今後は重要な位置付けとなっております。

この10年間に於いて、当地域ではかつて経験したことのない「28.8大雨災害」をはじめ、新型コロナウイルスという100年に一度とも言われる全世界的な新興感染症をも経験することになりました。

一方では、玉葱振興会が第60回農林水産祭において最高位の天皇杯を受賞するなど、振興会が相互扶助の精神をもって結束し、安全・安心で高品質な「きたみらいブランド」を確立することで地域社会の発展に貢献してきたことが高く評価されたところで

あります。

このような激動の時代を経た20年という節目を機に、あらためて組合員の皆様とJAとが一体となった地域農業振興への取組みが重要であると認識を深めたところであり、「組合員のため、組合員による、組合員とともに」という理念のもと「組合員の営農と生活を守る」ということを念頭に置きながら、「食と農」に対して消費者・地域住民の皆さまから広く応援していただけるよう、経営資源と機能の総力を結集し、組合員と共に役職員一丸となって農業・JAの多面的機能発揮に取り組んでまいり所存でありますので、組合員はもとより関係者各位、関係諸団体の皆さまには、今後とも特段のご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、ご多忙の中、玉稿をお寄せいただきました関係諸団体の皆さま、並びに編集・発刊に携わっていただきました皆さまへ心から敬意と御礼を申し上げるとともに、これまでの20年の歴史に加えて未来に向け躍進することをお誓い申し上げ、記念誌発刊にあたってのご挨拶といたします。